

開会式

日時：平成30年2月1日（木）8:45～9:00

会場：A会場 ボールルーム I（3階）

基調講演

大学病院を取り巻く諸課題

日時：平成30年2月2日（金）9:00～10:00

会場：A会場（3F ボールルーム I・II）

座長：坂口 広志（旭川医科大学 事務局）

演者：丸山 浩（文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院支援室長）

病院マネジメント（事務）セッション

みんなで一緒に財務改善 ～事務が牽引する費用削減～

日時：平成30年2月1日（木）13:35～15:35

会場：A会場（3F ボールルーム I）

座長：佐藤 俊明（旭川医科大学病院 事務部）

国立大学の法人化以降、各国立大学病院は収益増大・費用削減に取り組んでいただいております。そのなかでも事務主導で進めて行くべき一つとして、医療材料費削減があげられますが、医師、看護師、技師、皆それぞれの立場がありコンセンサスを得ることに労力を費やす等、一朝一夕にはいかないのが現実かと思われま

す。
このセッションでは、データ分析を根拠として、各職種の意見や希望を取り入れつつ協力して経費削減に至った事例や、特色のある取組についてご紹介いただきます。

1. 算定漏れを見つけ出すキッカケとなったHOMASベンチマーク
～K595 3次元カラーマッピング加算～
市川 貢資（鳥取大学医学部附属病院 経営企画課 企画分析係）
2. HOMAS2 を活用した診療科ヒアリング資料 ～運用変更で1億円～
斉藤 憲市（徳島大学病院 経営企画課 経営企画係）
3. 診療科等ヒアリングでの HOMAS2 利用別原価計算資料について
～「経费率分布図」と「DPC 別原価計算結果」による収支改善に向けた取り組み～
原 明希（名古屋大学医学部附属病院 経営企画課 経営分析係）
4. QI を含めた重要業績評価指標（KPI）による経営改善状況の把握管理
～HOMAS のビッグデータ等を活用した目標値設定とマネジメント～
國吉 徹也（琉球大学医学部附属病院 医学部経営企画課）

5. 宮崎大学病院における診療情報サポート体制
～医事課における診療情報連携のワークフロー化～
平島 しおり（宮崎大学医学部附属病院 医事課）
6. 看護師の超過勤務時間データを用いた現状把握と統計分析
妹尾 信孝（島根大学医学部 会計課経営支援担当）

病院情報システムセッション

ベンダーの変更を伴う HIS 更新を考える

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木） 13:35～15:05

会場：B 会場（3F ボールルームⅡ）

座長：遠藤 晃（北海道大学病院 医療情報企画部）

オーガナイザー兼座長：廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

昨年度の本会議で、部長会セッションのテーマが「HIS 更新の問題点を考える」であった。課題としてデータの継承やシステム費用削減要請などがあげられていた。特にデータ継承に関しては、新システムへの 100%データ移行が現場の要請であり、同じベンダーでの更新であればデータ移行についてはさほど問題とならないであろうが、他ベンダーへの変更した場合、データ移行が十分行われず、あるいは完全な移行に膨大な時間を要する可能性がある。昨年の本会議でも、ベンダーの変更により医療スタッフの負担が増えることが予想され、さらに変更後のデータの真正性、保存性に課題がある、との発言があった。このように他ベンダーへの変更はリスクを伴うと思われるが、HIS ベンダー変更を行った大学病院は少なくない。本セッションでは、HIS ベンダー変更を行った施設と予定通りにできなかった施設に更新時の経過や問題点などについて発表いただく。併せて、HIS 構築支援を業務としているお立場の方に、ベンダー変更時に病院が留意すべき点、必要な情報などについてお話しいただく予定である。

1. カスタマイズシステムから別ベンダーの HIS パッケージへの更新
中島 直樹（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）
2. 旭川医科大学病院が経験したこと
廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）
3. 他社リプレース時の留意事項
佐藤 廣志（有限会社システリア考房）
4. 病院情報基幹システム更新時の病院側影響と対応に関して
木寅 信秀（株式会社医用工学研究所）

部長会セッション

多施設症例データベース事業の現状

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木） 10:35～12:05

会場：A 会場（3F ボールルーム I）

座長：本多 正幸（長崎大学病院 医療情報部）

オーガナイザー兼座長：廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

近年、学会等が中心となり、電子カルテデータ、DPC やレセプトデータを収集する多施設症例データベース構築事業がいくつかの診療科で行われるようになってきた。これに人工知能技術を加えた応用研究も進められつつある。これまでにない全国規模のデータベースを構築することによって得られる効果は計り知れず、今後、様々な分野に広がって行くものと考えられる。

そこで、本セッションでは現在全国で行われている症例データベース構築事業のうち、糖尿病（J-DREAMS）と腎臓病（J-CKD-DB）のデータベース事業の取り組みをご紹介いただく。また、規模が大きくなるほど問題となるネットワークセキュリティについて、ネットワーク事業者から課題や解決策をご報告いただく。

1. 診療録直結型全国糖尿病データベース(J-DREAMS)事業について

中島 直樹（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

2. 全国規模の包括的慢性腎臓病臨床効果情報データベース（J-CKD-DB）の構築

岡田 美保子（公益財団法人先端医療振興財団）

3. 病院情報連携ネットワークの強靱化について

～病院情報データ連携における強靱なインフラ設計～

中島 豊（アライドテレシス株式会社 ビジネスデベロップメント部）

診療情報管理セッション

診療記録の質の向上と証明

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木） 9:00～10:30

会場：D 会場（2F ザ・イーストルーム）

オーガナイザー：西山 謙（九州大学病院 経営企画課）

オーガナイザー兼座長：初山 貴（北海道大学病院 診療録管理室）

座長：長谷部 直幸（旭川医科大学病院 第一内科）

医療法施行規則（特定機能病院の承認要件）や医療事故調査制度においては、実施された医療行為やインフォームド・コンセントが正確に記録されていることが重要であり、診療情報管理部門は、診療記録の質的担保を確保するために、改めて昔から言われる「カルテの番人」としての役割が強く求められています。

一方、電子カルテを導入する医療機関が増加しており、管理する情報量も増加していますが、診療記録の質を担保するためのシステムを構築している医療機関は一部に留まっているのが現状です。

本セッションでは、各医療機関で「カルテの番人」としてどのように診療記録の質向上に取り組んでいるのかをご紹介いただき、診療記録の監査体制や監査を行うための教育体制等について議論を行い、診療記録の質向上のために診療情報管理部門がどのようにあるべきかについて考えていきます。

1. 最近の当院での取り組みと保険監査について

細川 敬貴（東京大学医学部附属病院 医事課病歴チーム）

2. 診療記録の質管理を継続させるための組織づくりと診療情報管理士の人材育成
～人材育成は質の向上と継続に繋がる～
中筋 眞寿美（鹿児島大学病院 医療情報部）
3. 診療記録と監査について
西山 謙（九州大学病院 経営企画課）
4. 医療の質を支える職種として ～ 診療情報管理士への期待 ～
入江 真行（和歌山県立医科大学 先端医学研究所 医学医療情報研究部）

看護セッション

地域の特性を活かした協働と連携

日時：平成30年2月1日（木） 10:35～12:05

会場：B会場（3F ボールルームⅡ）

オーガナイザー兼座長：原口 眞紀子（旭川医科大学病院 看護部）

座長：本 尚美（熊本大学医学部附属病院 看護部）

現在、地域包括ケアシステムの構築に向け連携・協働の重要性が高まっているとともに、医療機関から在宅へと療養の場の転換がはかられ、看護職が積極的に地域の関係者とのネットワークを構築し、地域の特性にあわせた看護サービスを提供することが重要となっています。地域連携においても ICT 技術が活用されてきており、看護においても健康増進、疾病との共存、回復、看取りなどそれぞれの場面、場所において情報を共有し、活用することでより質の高い看護の提供につながります。

本セッションでは、地域の中核を担う大学病院で地域の実状に応じた、協働と連携についてご紹介いただき、最新の情報や課題を共有し、これからの協働・連携の在り方について考えたいと思います。

1. ICT を活用した顔の見える連携づくり ～テレビケア会議の実践から～
川端 有紀（旭川医科大学病院 地域医療連携室）
2. 地域で暮らす患者さんを支えるためのH I V診療ネットワーク作り
渡部 恵子（北海道大学病院 医科外来ナースセンター）
3. 健康を地域全体でサポートする
今村 かおる（熊本大学医学部附属病院 看護部）
4. 切れ目のない医療・介護の提供のために
～看看連携と介護専門支援員との連携のための取り組み～
篠原 弘枝（信州大学医学部附属病院 医療情報部・看護部）

歯科セッション

病院の情報連携基盤を医科歯科多職種連携に活かす

日時：平成30年2月1日（木） 13:35～15:05

会場：C 会場（2F ザ・ウエストルーム）

オーガナイザー：鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院 患者総合サポートセンター）

座長：玉川 裕夫（大阪大学歯学部附属病院 医療情報室）

座長：森本 徳明（矯正歯科 森本）

高齢化に伴う疾患構造の複雑化にともない、単一の機関では医療・介護が完結することは少なくなっている。患者は複数の診療・介護施設、事業所から複数の医療やサービスを受けており、歯科においても医科、介護等との情報交換なしに診療を完結することは困難な事例が急激に増加している。今回、病院の情報連携基盤を多職種連携、診療施設間連携へ活用して地域医療・介護を充実させていくかを目的に本セッションを企画した。

伊藤先生には医学部と歯学部附属病院が統合した後の多職種連携、医科歯科連携を医療情報システムの中で運用されているか。さらに ID-Link 等の地域連携ネットワークシステムおよび医療機関管理システムについてお話しいただく。

高柴先生には岡山県全域で運用されている地域医療 ICT ネットワークである岡山晴れやかネットによる医療施設間連携、医療・介護での多職種連携について、さらに歯科診療所などの小規模施設からの情報を公開する双方向情報共有システムに関しての実際と問題点をお話しいただく。

小神先生からは大学病院医局と病院歯科間の症例検討を、患者情報を守った上でいかに安価で、容易に行うかに関して、医療者間コミュニケーションアプリの Join を用いた症例検討の実際例と地域連携への展望を語っていただく。

本セッションでは病院内多職種における連携、小規模医療施設を含めた地域医療・介護の連携、歯科医療従事者間での連携について各演者から講演いただいた後、今後医療情報システムをどのように有機的に活用し連携していくかについてフロアの皆さんも含めて議論したい。

1. 北海道大学病院における医科歯科、他職種連携等に関する取り組み

伊藤 豊（北海道大学病院 医療情報企画部）

2. 院内の診療科間から院外の医療機関間での多職種連携へ

～医療ネットワーク岡山晴れやかネットでの連携の理想と課題～

高柴 正悟（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯周病態学分野）

3. Join を利用した病院歯科間連携

小神 順也（旭川医科大学 医学部 歯科口腔外科学講座）

薬剤セッション

これからの薬剤情報における新たな展開を考える

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木） 13:35～15:05

会場：D 会場（2F ザ・イーストルーム）

オーガナイザー：田崎 嘉一（旭川医科大学病院 薬剤部）

座長：三嶋 一登（旭川医科大学病院 薬剤部）

座長：高田 敦史（九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター）

特定機能病院の医療安全管理体制の確保およびガバナンス体制の強化を図るため、医療法施行規則が改正された（医政発 0610 第 18 号）。より高度な医療安全管理体制の確保がなされるよう「未承認・適応外・禁忌等

に該当する処方を含む情報の収集その他の医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施及び職員による当該方策実施の徹底」、医薬品安全管理を含めた内部統制・体制強化が規定された。また、2013年4月1日以降に製造販売承認申請される新医薬品については医薬品リスク管理計画（RMP）を策定することが義務付けられている（薬食審査発0411第2号）。RMPでは医薬品について安全性検討事項を特定し、使用成績調査、市販直後調査等による調査・情報収集や、医療関係者への追加の情報提供などのリスク最小化計画を医薬品ごとに文書化している。こういった背景のもと、医療安全の確保、医薬品適正使用の推進において、薬剤情報のマネジメントは極めて重要であり、今後の薬剤業務への応用・展開が期待される。

本セッションでは、各施設の薬剤情報に関する業務の効率化、情報の共有化、地域医療との連携強化などの取り組みを紹介いただき、薬剤情報をいかに効果的に活用していくか今後の展望について討議したい。

1. 業務改善と病院経営に貢献するためのベンチマークデータの活用

栗屋 敏雄（市立旭川病院 薬剤科）

2. 新たな薬剤アレルギー入力システムの導入と課題

村川 公央（岡山大学病院 薬剤部）

3. 副作用モニタリング管理ツールの開発と業務効率化

石田 俊介（徳島大学病院 薬剤部）

4. 院外処方せん付加情報と病院薬局講習会の効果

久保田 康生（北海道大学病院 薬剤部）

5. 処方箋への検査値のQRコード印字による医薬品適正使用の推進

寺川 央一（旭川医科大学病院 薬剤部）

放射線セッション

放射線部門医療情報管理における連携

日時：平成30年2月1日（木） 10:35～12:05

会場：D会場（2F ザ・イーストルーム）

オーガナイザー：佐藤 順一（旭川医科大学病院 放射線部）

オーガナイザー兼座長：林 秀樹（旭川医科大学病院 放射線部）

座長：谷 祐児（旭川医科大学病院 経営企画部）

本セッションでは、放射線部門が関わる医療情報管理について「連携」をテーマに、異なる視点から、現状の医用画像管理・運用における最新の取り組みについて報告していただく。また、同意書の運用についてのアンケート調査結果について座長より報告する。

放射線部門では、院内外における多種多様な画像データ・検査治療に関する情報のみならず、医療安全・コンプライアンスといった間接的な情報管理にも幅広く関与しており、医療情報部を扱う部門の中でも担う役割は大きい。本セッションを通じ、情報共有とシステムの課題および今後期待される仕様等に関し論議していただき、今後の医療情報関連業務における連携について、再考する機会になることを期待する。

1. 各モダリティ放射線画像の画像連携について
～当院における放射線部門で発生する画像に関する連携について～
濱口 裕行（北海道大学病院 医療技術部 放射線部門）
2. 放射線情報システムのベンダー変更に伴うデータ連携について
小泉 幸司（京都大学医学部附属病院 放射線部）
3. 医療画像情報における地域連携システムの運用と課題
～くまもとメディカルネットワーク(KMN)と外部保存の活用例を中心に～
池田 龍二（熊本大学医学部附属病院 医療技術部）

検査セッション

未来に必要な臨床検査情報のマネジメント

日時：平成30年2月1日（木） 15:10～16:40

会場：D会場（2F ザ・イーストルーム）

オーガナイザー兼座長：佐藤 浩樹（北海道情報大学 医療情報学部）

オーガナイザー兼座長：藤井 聡（旭川医科大学 臨床検査医学講座）

安定して効率よい臨床検査情報システムの構築は、精度の高い検査結果を効率よく提供することや患者サービスの観点から極めて重要なテーマである。各病院において、状況に応じて独自の臨床検査情報のマネジメントシステムを構築しているものと思われる。本セッションでは、現状を紹介してもらい、2025年問題など大きな変革を迎える医療のなかで、将来の臨床検査室に必要とされる検査機器や LIS の機能、臨床検査情報のマネジメントシステムのあり方についてともに検討したい。

1. これから必要になる臨床化学自動分析装置の機能
梅森 祥央（札幌医科大学附属病院 検査部）
2. 将来必要となる LIS の機能
早坂 光司（北海道大学病院 検査・輸血部）
3. 「JOIN システムにおける輸血検査情報の活用」
～輸血検査とクラウド型救急医療連携支援事業～
藤井 聡（旭川医科大学 臨床検査医学講座）
4. 地域包括ケアにおける医療情報のあり方
佐藤 浩樹（北海道情報大学 医療情報学部）

地域連携セッション

地域連携室と医療関連情報システム

日時：平成30年2月1日（木） 9:00～10:30

会場：A会場（3F ボールルーム I）

オーガナイザー：小林 利彦（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

オーガナイザー：廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

座長：鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院 地域保健医療推進部）

座長：古川 博之（旭川医科大学病院 地域医療連携室）

2025 年に向けて地域医療構想の実現が叫ばれ、病院の機能分化が求められている昨今、大学病院においても「地域連携室」の役割はますます高まるばかりであるが、従前のアナログ的な対応から ICT を活用した医療連携・地域連携の推進が期待されている。そのような状況下、他の医療機関の診療情報を閲覧・活用する EHR や患者が自らの診療情報を管理・利用するための PHR などが現在複雑に運用されている。

今回、大学病院の地域連携室として、その種の医療関連情報システムをどのように利用・活用していけばいいのか、比較的先進的な取り組みをしている 3 大学病院から情報提供いただき議論することを目論んで本企画を立ち上げた。千葉大学の藤田伸輔先生からは PHR/EHR 統合システム（SHACHI）を用いた地域医療連携支援に関して、長崎大学病院の松本武浩先生からは地域医療情報ネットワークシステム「あじさいネット」を活用した医療連携や教育支援等の話を、旭川医科大学の石子智士先生からは眼科（ロービジョン）外来における予約システムと遠隔医療支援についてご講演いただく予定である。

いずれの演者も、大学病院の今後の「地域連携室」の在り方について言及してくれるはずであり、関係者には大いに参考となる知見が得られるものとする。折しも、次期診療報酬改定において、従前の「退院支援」から「入退院支援」という名称変更が予定されていることもあり、時機にあった議論が濃厚に展開されるものと期待している。

1. PHR/EHR 統合システム SHACHI を用いた地域医療連携支援

藤田 伸輔（千葉大学予防医学センター 臨床疫学）

2. 地域完結型医療時代の ICT を活用した医療連携

～大学病院や専門病院の地域連携室の役割はどう変わるか？～

松本 武浩（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 先進予防医学講座 医療情報学）

3. 旭川医大眼科の地域連携

石子 智士（旭川医科大学 医工連携総研講座）

臨床研究・治験セッション

臨床研究・治験における ICT の管理と活用 ～支援の実情～

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木） 9:00～10:30

会場：B 会場（3F ボールルームⅡ）

オーガナイザー：田崎 嘉一（旭川医科大学病院 臨床研究支援センター）

オーガナイザー兼座長：松本 成史（旭川医科大学病院 臨床研究支援センター）

座長：谷 祐児（旭川医科大学病院 経営企画部）

臨床研究や治験を適正に遂行するために、情報の管理が重要なことは言うまでもない。現在では、様々な ICT 技術を活用したシステムが情報管理に使われており、近年盛んになっている医師主導治験にも利用されている。また、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針が 2017 年に改訂され、そこで得られる患者情報についても、その取り扱い方に注意が必要となっている。本セッションでは、このような状況下で各施設にお

いて ICT 技術をどのように活用しているか、実情を含めてご紹介していただく。さらに AMED からデータベースに関する情報提供をいただき、今後の各施設での参考になるセッションとしたい。

1. 臨床研究・治験への医療情報システムの活用
橋本 あきら（北海道大学病院 臨床研究開発センター）
2. 医師主導治験における ICT 等を活用した情報管理体制の構築
～Apeos PEMaster Evidence Manager を使用した 1 例～
二川 俊隆（鹿児島大学病院 臨床研究管理センター）
3. 構成管理ツールを用いた REDCap 簡易導入法の提案
宮本 潤哉（長崎大学病院 臨床研究センター）
4. 臨床研究申請に関する当院の電子システム（ToCMS）の体制について
武智 研志（徳島大学病院 臨床試験管理センター）
5. 再生医療等データ登録システムに使用されるデータベース
National Regenerative Medicine Database（NRMD）について
神山 直也（日本医療研究開発機構 戦略推進部再生医療研究課）

情報提供 A

放射線画像や病理検査レポートの見忘れ防止

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木） 15:10～16:40

会場：C 会場（2F ザ・ウエストルーム）

オーガナイザー：廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

座長：大崎 能伸（旭川医科大学病院 呼吸器センター）

座長：松村 泰志（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

近年、放射線科画像に悪性腫瘍の存在を疑う記載のあるレポートや、生検で悪性腫瘍と診断した病理レポートなどの確認忘れがあったために、後日見つかった時には末期の状態であったというような事例が相次いで報告されている。以前からあったものが、最近報道される様になったとも考えられるが、なぜこのようなことが起こりうるのか、そして相次いでいるのか、その背景をまずご発表いただく。次いで、その対策として、現在行っている放射線画像と病理診断レポートの見忘れ防止方法をご紹介いただく。

あってはならない問題であるだけに、再発防止に向けた活発なご議論を期待する。

1. 重要診断事項見忘れの背景
大崎 能伸（旭川医科大学病院 呼吸器センター）
2. 放射線画像レポートの見忘れ防止を考える
三宅 秀敏（大分大学 医療情報部）
3. 病理報告書通知機能について
谷 祐児（旭川医科大学病院 経営企画部）

情報提供 B 特別講演

旭川医科大学における医療 ICT 戦略

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木） 16:50～17:50

会場：D 会場（2F ザ・イーストルーム）

座長：廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

演者：吉田 晃敏（旭川医科大学）

旭川医科大学の吉田晃敏学長は本来眼科医ではありますが、かなり以前から医療の ICT 化に興味をお持ちで、遠隔医療支援ネットワーク網の整備、在宅医療支援や遠隔健康管理システムの構築など、これまで多くの業績があります。また、最近新たな取り組みも計画されているようですので、情報提供の一枠を用い、吉田学長に旭川医科大学の医療 ICT 戦略についてご紹介いただくことにしました。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

演者紹介：1979 年 旭川医科大学医学部医学科卒業

1979 年 旭川医科大学眼科学教室入局

1980 年 ハーバード大学医学部眼科

Schepens Eye Research Institute 留学（1983 年まで）

1985 年 釧路赤十字病院眼科部長

1986 年 旭川医科大学眼科講師

1988 年 旭川医科大学眼科学講座助教授

1989 年 ハーバード大学医学部眼科

Schepens Eye Research Institute 留学（6 ヶ月間）

1992 年 旭川医科大学眼科学講座教授

2007 年 旭川医科大学学長

総会・閉会式

日時：平成 30 年 2 月 2 日（金） 10:05～11:30

会場：A 会場 ボールルーム I（3 階）

各種委員会

医療情報部長会・幹事会

日時：平成 30 年 1 月 31 日（水） 15:00～16:00

会場：A 会場 ボールルーム I（3 階）

医療情報部長会

日時：平成 30 年 1 月 31 日（水） 16:00～18:00

会場：B 会場 ボールルーム II（3 階）

UMIN 小委員会・薬剤

日時：平成30年2月1日（木）9:00～10:00

会場：BIZ ルーム I（4階）

診療情報管理士連絡会

日時：平成30年2月1日（木）10:40～12:00

会場：BIZ ルーム I（4階）

UMIN 協議会・幹事会

日時：平成30年2月1日（木）15:00～16:40

会場：BIZ ルーム I（4階）

UMIN 協議会・総会

日時：平成30年2月2日（金）11:30～12:00

会場：A会場 ボードルーム I・II（3階）

運営委員会

日時：平成30年2月2日（金）12:00～13:00

会場：大和（4階）